



北光だより

甲府市立北新小学校
令和6年3月25日
No. 11
校長 雨宮 秀樹

6年生を送る会

暗幕を閉めて真っ暗になった体育館。6年生が台の上に立ち、全身にスポットライトの光を浴びます。一人一人が感謝の気持ちや将来の夢など、下級生にメッセージを伝えます。6年生を送る会が始まりました。

送る会の前半は、各学年の発表です。6年生へ感謝の言葉を伝えたり、練習の成果を発揮して合唱や合奏を発表したりしました。手話・ダンスの表現や、

「くじらぐも」「スイミー」・・・国語の学習を振り返ったりもしました。合間には、事前に6年生に取ったアンケートをもとにしたクイズが出されるなど、楽しい時間が流れました。6年生からは合唱曲「正解」が披露されました。難易度の高い曲ですが、堂々とした態度で歌う姿に、下級生が圧倒されていました。

後半は児童会の引継式が行われました。6年生の児童会本部役員より、令和6年度新児童会会長・副会長へ、児童会ファイルと児童会旗が手渡されました。最後は、全校児童で「ビリーブ」を歌いました。

全校児童が体育館に集まり、対面での6年生を送る会が、4年ぶりに開催できました。オンラインでは伝わりきれない想い、画面越しでは味わえない息遣いや熱量など、直に感じた時間となりました。1～5年生までのみんなが6年生のことを想い、「感謝する気持ち」を伝えた時間。6年生が下級生のことを想い、「後は頼むよ！という気持ち」を伝えた時間。6年生を送る会の会場となったこの体育館が、児童会の旗と同じ爽やかなスカイブルー、まるで空色の空気で包まれたように感じました。

行事の振り返りからは、「6年生一人一人が輝く会だった。6年生が嬉しそうだった。」「5年生がそれぞれの役割分担に分かれて、自分の役割をしっかりと果たしていた姿が格好良かった。下級生の良いお



手本となった。」「子どもたちが生き生きと動いていて、行事で子どもが育ち成長している。自己肯定感や有用感が感じられる会だった。」という声が届けられました。今回の6年生を送る会を支えたのは、新児童会役員を中心とする5年生です。計画・準備・運営・・・等、自分たちで考え、取り組む中で、最高学年としてのバトンを受け取る意識が育ってきています。



中学校より出前授業

小中連携の一環として、甲府市立北中学校の渡辺圭輔先生による6年生への出前授業が行われました。これは、中学校への進学時、新しい環境での学習や生活に戸惑いを感じる「中1ギャップ」を縮小・解消するための取組です。この日は、小学校の算数「比例」「反比例」が、中学校の数学「関数」へ発展していく問題を考えました。教科の名前は「算数」から「数学」に変わっても、小学校で学習したことをもとにして、中学校の学習が広がっていることが感じられたようでした。



卒業へ向けて～愛校作業

「思い出いっぱいの校舎を綺麗にしてから卒業しよう！」と、日頃の掃除では行き届かないところを、6年生がピカピカにしてくれました。全校児童の靴箱を綺麗にしたり玄関のタイル1つ1つを磨いたり、黙々と汚れを落とす様



子は、本校の学校教育目標の1つである「根気よくはたらく子ども」を具現化した姿のようでした。「進んで学習する」「健康づくりをする」「思いやる心を持つ」「根気よくはたらく」4つの学校教育目標を達成した6年生は、3月21日（木）卒業証書授与式をICHIGANとなって迎えました。



1年間ありがとうございました



本日、令和5年度の修了式を行いました。6年生が卒業し、ぼかんと空いた体育館のスペースを見て、子どもたちは戸惑いを感じていました。でも、これは「次の学年へ進級する」「新1年生を迎える」ための心の構えとも言えます。学年末・学年始の休業期間は、4月から始まる新年度へ向けの準備を進められるよう声を掛けてあげてください。

さて、本年度の5月に感染症法上の位置づけが引き下げられ、顔を突き合わせての話し合い、友だちと密になる活動なども戻ってきました。一方、コロナ禍の中で取り入れられたクロムブックでの学習、Webシステム・オンラインでの式や集会など、新しい取組への挑戦も始まっています。これまでの慣習や過去の経験に囚われることなく、今までの当たり前を見直し、With コロナ時代の学校生活が始まっています。1年間、学校教育へのご理解・ご支援、誠にありがとうございました。令和6年度、また新しくスタートする北新小学校へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

